

# 令和7年2月定例会

## 県政の重要課題について代表質問を行いました。

国の経済対策を踏まえた補正予算をはじめ、子ども施策、スタートアップ支援、防災・減災対策、国際交流の推進など、県政の重要課題について代表質問を行いました。その主な内容と知事および執行部答弁のポイントをご報告します。



### 質問1 国の経済対策を活用した補正予算について

物価高騰やエネルギー価格の上昇が続く中、県民生活や事業活動への影響をどのように軽減していくのか、国の経済対策を活用した補正予算の考え方について質問しました。

**答 弁** 国の重点支援地方交付金を最大限活用し、中小企業・小規模事業者や農林漁業者への支援、医療・介護・保育分野の人材確保対策、子育て世帯への負担軽減を柱とする補正予算を編成し、県民生活の下支えと地域経済の活性化を図る。

### 質問2 地方創生の取組について

本県では、平成二十七年に人口ビジョンと地方創生総合戦略

# 令和7年度 予算特別委員会

## 令和7年度 予算特別委員会



### 質問1 交通空白の解消と運転手不足対策について

物地域公共交通の維持・確保に向けた課題について質問しました。

**答 弁** 全国的なバス運転手不足や路線減便を踏まえ、県は燃料費高騰対策や車両購入補助、バス停改修、キャッシュレス化などの支援を行ってきたとの答弁がありました。コミュニティバスは県内48市町村で運行され、AIオンデマンド交通も導入が進み、運行経費や設備導入費を支援しています。今後は市町村間調整や民間連携による広域化支援を強化し、運転手不足対策として若年層への発信や退職自衛官の活用も検討する。

### 質問2 入院中の子どもに付き添う家族の環境改善について

**答 弁** 国の「入院中の子どもの家族の付添い等に関する環境改善事業」は、休息スペース整備や簡易ベッド購入を支援する制度です。県の調査では、多くの病院で家族の付添いが行われ、8割以上の入院で付添い

を策定し、雇用創出、子育て支援、人材育成と人の流れの創出、安全・安心な地域づくりの四つの柱で施策を進めてきました。企業誘致や中小企業支援、出産・子育て支援、教育環境整備、移住促進、インフラ整備など一定の成果を上げてきた一方、出生率の低下や東京圏への転出超過など厳しい状況も続いている。知事は、地方創生は道半ばと認識、今後も国の地方創生二〇〇の動きを踏まえ、安心して暮らし働ける地域づくりを正面から取り組む。

### 質問3 福岡空港の機能強化と県経済への波及効果について

増設滑走路や国際線ターミナルのリニューアルについて質問しました。

**答 弁** 空港機能の強化により人流・物流が一層活発化し、観光振興や企業立地、県内産業の成長に大きく寄与する。

### 質問4 韓国との経済・文化交流の継続と発展について

交流環境の変化を踏まえつつも、これまで築いてきた自治体間国際交流や人的・文化的交流の重要性を指摘しました。

**答 弁** 観光や青少年交流、文化・スポーツ分野など多様な形で交流を継続・発展させ、相互理解を深めていく。

### 質問5 介護分野の人手不足について

本県では令和八年度に約九万四千人の介護職員が必要と見込まれる一方、令和五年度時点では約八万六千人にとどまり、約八千人の不足が生じていま

がある病院が過半数を占め、家族の負担が大きい現状、補助制度の制約も踏まえ、より実効性のある環境整備が必要との答弁があり、今後は好事例の共有や意向調査、協議会での検討を進める。

### 質問3 九州国立博物館20周年を契機とした魅力向上と地域連携について

**答 弁** 累計来館者は約1,950万人に達し、コロナ禍で落ち込んだ入館者数も現在は年間約60万人まで回復しているが、コロナ前の水準には至っていない。来館促進に向け、太宰府天満宮など周辺施設との共通割引チケットやスタンプラリー、参道でのPR展開など、地域一体となった取組が進められている。20周年記念では、特別展「九州の国宝 きゅーはくのたから」をはじめ、九州の歴史・文化と連動した展示や多彩な記念事業を通じ、魅力発信を強化する。

### 質問4 災害に強い道路ネットワークの構築について

激甚化する自然災害に備え、県民の命と暮らしを守る道路ネットワークの強化について質問しました。

**答 弁** 道路は災害時の人命救助や物資輸送を支える重要なインフラであり、県では高速道路や国道を緊急輸送道路に指定し、多重性・代替性を備えた整備を進めている。大規模災害時には「福岡県道路啓開計画」に基づき、自衛隊等と連携して瓦礫撤去などを行い、緊急車両の通行確保を図る。橋梁の耐震補強や無電柱化、四車線化なども進め、太宰府市では福岡日田線の橋梁架け替え等が進められている。

す。働きやすい介護職場認証制度の創設や研修、外国人留学生への奨学金支援など参入促進に取り組みとともに、処遇改善加算取得支援、介護DX支援センターによる業務効率化支援、カスハラ対策など定着支援を進めている。今議会では、外国人材確保や職場環境改善、賃上げ、ICT導入を支援する補正予算を計上し、引き続き人材確保に取り組む。

### 質問6 子ども施策を総合的に進める「福岡県子ども計画」について

すべての子どもと子育て家庭を適切に支えることなく支援する「福岡県子ども計画」について質問しました。

**答 弁** 妊娠・出産期から若者期まで一貫した支援体制を整え、貧困対策、虐待防止、ヤングケアラー支援、不登校対策などに部局横断で取り組み、地域全体で子どもを支える。

### 質問7 スタートアップ支援拠点の整備と新産業の創出について

**答 弁** 支援拠点を核に、資金調達や人材育成、大学・企業との連携を強化し、国内外から挑戦する人材を呼び込み、新産業の創出と雇用拡大につなげていく。

### 質問8 福岡県道路啓開計画と下水道対策について

**答 弁** 関係機関と連携した体制整備や訓練を進めるとともに、老朽化した下水道管路については優先度を踏まえ、計画的に補修・更新を進めていく。

### 質問5 自転車事故の増加と高校生への安全確保について

高校生の通学中における自転車事故の増加と安全対策の強化について質問しました。

**答 弁** 県立高校生の事故は増加傾向にあり、スマホのながら運転や信号無視など、基本的なルール違反が多くを占めている。県では全校で交通安全教室を実施し、警察等と連携した指導や自転車通学時の点検を徹底している。さらに本年度からヘルメット着用を義務化し、啓発や購入支援を進めている。今後は法改正を踏まえた教育強化と通学路の安全確保を図り、高校生が安心して通学できる環境づくりに取り組む。

# 令和7年10月定例会

## 令和6年度 予算特別委員会

### 質問1 老人クラブに対する県の取組について

**答 弁** 老人クラブは、健康づくりや見守り、交流事業を通じて高齢者の生きがいや社会参加を支え、介護予防や健康寿命の延伸に重要な役割を担っている。一方、クラブ数や会員数は減少傾向にあり、価値観の多様化や役員への負担など課題とされている。県では活動費助成や研修会の実施、県老人クラブ連合会と連携した情報発信や加入促進に取り組んでおり、今後も市町村等と連携し、活動の継続と活性化を図る。

### 質問2 保育士の確保と処遇改善について

**質問9 ワンヘルスの推進と県産農林水産物の振興について**  
**答 弁** ワンヘルスについては、感染症対策や環境保全、食の安全確保など分野横断的な取組を着実に進め、福岡県の先進的な取組を発信していく。  
また、八女茶をはじめとする県産農林水産物については、ブランド力強化や海外展開、担い手育成を通じ、地域経済の活性化を図る。

**質問10 県立高校の食堂について**  
**答 弁** 本県では95校中91校に食堂がある一方、利用率は1日約14%と低く、原材料費や人件費の高騰により経営が厳しい状況です。今年度は1校で既に事業者が撤退し、年度末までに13校で撤退予定ですが、1校を除き後継事業者は決定している。県教育委員会は、施設使用料の大幅減免や共益費全額免除、光熱水費の減免、調理機器の無償提供などで支援しています。今後は、利用促進に向けたPRや生徒の声を生かしたメニューづくり、価格設定や営業時間、地域開放など事業者の工夫に丁寧に対応し、食堂運営の継続を支援していく。

**質問11 未来を見据えた県政運営に向けて**  
**答 弁** 県民の命と暮らしを守ることを最優先に、誰もが安心して暮らせる福岡県の実現に向け、各施策を着実に推進していく。今後も、現場の声を県政に届け、将来世代に誇れる福岡県づくりに全力で取り組んでまいります。

**質問3 土石流対策と下水道管路の安全管理について**  
**答 弁** 待機児童数は減少しているものの、障がい児保育への対応や配置基準の見直しにより、保育現場では人手不足が続いている。潜在保育士の掘り起こしや就職支援、研修充実により保育士数は増加傾向にある一方、現場では不足感が強い。今後、一歳児配置基準の改善や「こども誰でも通園制度」の本格実施を見据え、「保育士・保育所支援センター」を活用し、市町村や養成校と連携した確保策を進める。あわせて、賃金改善や職場環境整備、公定価格の地域格差是正を国に求めていく。

**質問4 土石流対策と下水道管路の安全管理について**  
頻発する豪雨災害を踏まえ、土石流対策と下水道管路の安全管理について質問しました。

**答 弁** 線状降水帯による豪雨が相次ぐ中、過去に被害を受けた太宰府市をはじめ、市街地や学校、観光地を守る対策強化が重要。透過型・不透過型それぞれの特性を踏まえた砂防ダム整備を進め、透過型に堆積する土砂は国の新たな補助制度を活用し、計画的に撤去・管理する。あわせて、警戒区域での情報提供や避難体制整備などソフト対策の重要性も確認。さらに、全国調査で補修が必要と判定された下水道管路について、緊急度に応じた補修・更新と継続的点検により安全確保に努める。

なお、本文中の質問および答弁は、議会でのやり取りを要約して掲載しております。全文につきましては、下記ホームページのURLよりご覧いただけます。

福岡県議会  
会議録検索システム